

# 平成 21 年度施政方針に対する質疑

## ～～代表5名の議員が質疑～～

定例会第1日目（2月13日）の本会議において、市長から平成21年度施政方針が表明され、定例会第2日目（2月18日）の本会議において、施政方針に対する質疑を行いました。

質疑の要旨は次のとおりです。

**公立刈田総合病院  
健全経営への道筋は  
政和会 保科 惣一郎**

〔質疑〕昨年来、地域医療の中核である公立刈田総合病院の医師不足が大きな問題となり、市内を2分する政争へと発展してしまつた。

ここにきて新院長就任以来、着実に医師の数も増え、落ち着きを取り戻したように見える。

市長も言っているように「公立刈田総合病院は市民の生命と健康を守る砦」であり、必ず再生しなければならない最重要課題である。

この公立刈田総合病院の再生、健全経営への道筋を示されたい。

〔答弁〕公立刈田総合病院（以下「刈田病院」と表記します）の再生、健全経営の道筋については、刈田病院改革プランに基づき着実に進めてまいりたい。

医師数は、刈田病院改革プランにより平成23年度に32名で運営したいと考えている。



公立刈田総合病院

事業経営の見直しを含めた今後の方向は、刈田病院改革プランにおいて、当面は経営効率化を最優先し、現状の地方公営企業法の一部適用の体制で改革を推進することとしている。

勤務医と開業医の協力体制をつくる道筋としては、昨年からは刈田病院の医師不足等の問題を中心とした本市の地域医療対策

について、白石市医師会、白石市議会、刈田病院、そして白石市による地域医療対策懇談会を3回開催している。

開業医からの紹介、刈田病院からの逆紹介など病診連携がますます重要となつてくるので、引き続き懇談会を継続開催する中で連携協力体制が図られるよう努めてまいりたい。

**子育て支援について  
創政会 佐久間 儀郎**

〔質疑〕4万人都市復活のためには、雇用・定住促進、子育て支援が肝要である。

本市の子育て支援施策は、若い世帯に経済的負担軽減を図る傾向性を持ち、その充実に進化を期待している。

妊婦健診14回無料化、特定不妊治療費助成、乳幼児医療費助成の段階的年齢引き上げ、ごみ袋交付、第三子保育料無料化、延長・休日保育など、これら諸施策については大いに期待をしているところである。

るが、次の施策について市長の所見を伺いたい。

○放課後児童クラブの適正児童数及び空き教室を活用する事業展開に至る施策検討の経緯について。

〔答弁〕放課後児童クラブの1クラブ単位の適正児童数については、現在の児童館では60名程度、新たな事業実施場所である第一小、第二小にあつては40名程度と考えている。

一方、国の補助基準において、平成22年度から年間平均登録児童数が71人以上の児童クラブでは、最大70人以下に分割運営しなければならない。児童クラブの分割計画の進捗状況では、児童にとつて、分割による環境、友人関係の変化など最小限の影響を抑えるべきとの判断から、新年度の早い段階から分割した形でスタートすべく準備を進めている。

また、本件に関する父母への説明では、既に新年度利用に係る申請受け付けの際の個別面談時に概要説明を行っている。